

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
7	川崎市立京町中学校	後藤 建人

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○けじめのある生活習慣・態度を身につけよう</p> <p>○心身を鍛え、心と知を互いに磨き合おう</p> <p>○能力・適性を見つめて、よりよく伸ばそう</p> <p>○豊かな情操を育て、思いやる心を育てよう</p>	<p>○学習意欲の向上○基礎的・基本的な学力の定着○言語活動の充実○主体的に取り組む授業の工夫・改善○特別支援教育の体制の充実○言語環境の構築○生徒会活動の活性化○教育相談の充実</p> <p>○道徳教育の推進○不登校対策と支援○共生共育の推進○基本的な生活習慣の確立○健康教育の推進○食育の推進○学習環境の整備○安全教育の実践○防災教育の推進○家庭・地域への適切な情報の発信○地域社会との連携○小中連携の推進○学校評価のシステムの確立</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>基礎的・基本的な学力の定着</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の推進と実践</p> <p>○学習規律の確立</p> <p>○わかる授業の実践</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実践</p> <p>○校内研究の再構築と実践</p> <p>○指導と評価の一体化の推進</p> <p>○言語活動の推進</p> <p>○家庭学習の習慣化をめざす指導</p> <p>○教育サポーターの効果的な配置</p>	<p>○キャリア在り方生き方教育の視点をもち、キャリアパスポートの取組を通してキャリアの学習内容の記録を残すことができた。</p> <p>○落ち着いて授業に臨む雰囲気をつくるため、年度当初に授業規律について教職員間で確認し、実施することができた。</p> <p>○指導要領にある学力の3つの要素(①基礎的な知識②知識・技能③学習に取り組む意欲)について各教科、確認した。</p> <p>○LGBTQをテーマとした道徳の授業研究会を昨年度に引き続き行うことができた。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得の中で、つまづきやすい内容の確実な習得のために繰り返し学習の大切さを全職員で共有できた。</p> <p>○「主体的に学ぶ生徒を育成するために…～主体的・対話的で深い学びを常に意識した授業作り～」を全教科の共通テーマとして、教科で授業提案を行うことができた。全教科の先生で、研修を深めることができた。</p> <p>○長期休業前にその段階での学習評価を通知し、保護者面談を通して学習への取り組みについてアドバイスを通して、指導と評価の一体化を図った。</p> <p>○教育活動サポーターの配置により、支援の必要な生徒に対して適切な学習支援が行われた。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を習得することがわかる授業の前提になるので、教職員全体でこの意識をもって取り組んでいきたい。</p> <p>・わかる授業づくりのためにユニバーサル授業を意識し、学が環境やわかりやすい授業をさらに構築していきたい。</p> <p>・全教科で生徒同士のかかわりを通した学び合いを通して、主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践をさらに推進していきたい。</p> <p>・教科等の指導の中で、観察・実験やレポートの作成などを通しての知識・技能を活用する学習活動を行い、言語活動をさらに推進していきたい。</p> <p>・協動的な学びを通して生徒の言語力を高め、生徒の学習意欲と基礎的・基本的な知識・技能の向上にあたりたい。</p> <p>・体験活動の中での達成感の積み重ねを通して自己肯定感や自信をもたせ、学習意欲の向上の意識を高めたい。</p>
2	<p>心の教育の推進</p> <p>○豊かな人間関係の構築を中心とした道徳教育の推進</p> <p>○いのち、こころの教育の推進</p> <p>○校内いじめ防止対策委員会の充実</p> <p>○情報の共有化と関係諸機関との連携推進</p> <p>○かわさき共生*共育プログラムの推進</p>	<p>○毎週月曜日に行う主任会や職員会議等を含めて、職員間での情報交換を綿密に行い、いじめ等の未然防止、初期対応することができた。</p> <p>○生徒指導上の問題について、職員間や保護者との情報共有を行っている。また、必要に応じて、スクールカウンセラーや子ども家庭センターなどの他機関と継続的に連携を図り、情報を共有しながら、的確な指導に生かすことができた。</p>	<p>・いじめの初期対応はできていたが、生徒間暴力や器物破損等の情報共有や対応が遅れるケースがあった。改めて、生徒指導の校内体制の見直しや確認が必要である。</p>
3	<p>規範意識と人権意識を高める指導の充実</p> <p>○あいさつ、ことばづかい、時間を守るなどの基本的な生活習慣の定着</p> <p>○生徒理解にもとづいた教育相談・生徒指導の展開</p>	<p>○生徒会本部や生活委員会が中心となった「あいさつ運動」を実施した。学年・学級リーダーによる授業前の声掛けなど、生徒が主体となってチャイム着席を定着させることができた。様々な場面で、あいさつをすること、丁寧なことばづかいをすること、時間を守ることを指導した。</p> <p>○教育相談を年間3回実施した(4月・8月・12月)。事前アンケートを行ったうえで、生徒の家庭内の悩みや人間関係の問題等について相談を受け対応することができた。</p>	<p>・授業離脱や、トイレにこもっている生徒への対策として、休み時間の巡回と、教科担任の出欠確認の徹底を強化するとともに、出席確認のとれない生徒に関しては、職員室と連携をとって対応する。</p>
4	<p>主体的に活動する能力の育成</p> <p>○主体的に活動する生徒会活動の推進</p>	<p>○生徒会本部役員や各委員長、部長、学級委員、班長をはじめとするリーダー生徒の育成に、普段の学校生活や学校行事を通じて継続的に取り組んだ。</p> <p>○学校行事など様々な場面で、生徒が主体的に活躍する姿が多く見られた。</p> <p>○生徒集会など、生徒が中心となって企画・運営することができた。</p>	<p>・リーダー生徒の育成に関しては継続的に行うことができたが、さらにリーダーの質を上げていきたい。</p> <p>・生徒が主体的な活動をできるよう、教職員で継続的に支援をしていきたい。</p> <p>・引き続き生徒が主体的に活動できる場を提供していきたい。</p>
5	<p>特別支援教育体制の充実</p> <p>○一人ひとりのニーズの把握と特別支援教育の実践</p> <p>○特別支援教育サポーターの活用</p>	<p>○特別支援についての情報交換会を定期的に行うことで、全職員で情報共有し、授業の入り込み支援に取り組んだ。</p> <p>○日本語を母語としない生徒に対して、日本語指導等協力者と連携しながら、日本語の指導、生活指導、学習指導に取り組むことができた。また、定期試験においても、ルビふりなど合理的な配慮の考えに基づいた支援を提供することができた。</p> <p>○支援の必要な生徒の把握と対応について考えることができた。</p>	<p>・特別支援教育サポーターの入り込みによる具体的な特別支援教育の充実。</p> <p>・支援が必要な生徒の現状と支援の方法を定期的に情報共有し、その成果と課題を職員全体で共有し、より良い支援策を検討することで、さらに充実した支援体制の確立に努める。また、良い実践を蓄積し、共有することで特別支援の教育実践をさらに高めていく。</p> <p>・支援の必要な生徒の課題把握とよりよい具体的な解決法を実践する。</p>
6	<p>健康指導と安全管理の充実</p> <p>○健康や安全に対する関心・意欲の育成</p> <p>○健康診断の計画的な実施</p> <p>○計画的な食育の推進</p> <p>○給食を活用した食育の充実</p> <p>○性や薬物等の乱用に関する指導の充実</p> <p>○学校防災についての意識の啓発</p> <p>○防災教育の推進</p> <p>○避難訓練・防災訓練の計画的な実施</p> <p>○美化活動・緑化活動の計画的な推進</p>	<p>○保健委員会による校内掲示や発表活動を通して、健康や安全に対する関心・意欲を高めることができた。</p> <p>○学校医と連携を図り、感染症対策に留意しながら計画的に健康診断を実施することができた。</p> <p>○保健室を利用した生徒の状況について、養護教諭と各学級担任が連携を図り情報共有をすすめていくことで、生徒理解や支援につなげることができた。</p> <p>○放送委員会と連携し、給食の献立に関する情報を昼の放送でアナウンスするなど、学校全体の食育に取り組むことで残食率に多少の改善が見られたものの、依然としてその高さは課題である。</p> <p>○外部機関と連携し、性教育や薬物乱用防止に関する講演会を学年単位で実施することで、生徒の理解や関心を高めることができた。</p> <p>○感染状況により一部オンラインを活用し、災害や火災を想定した避難訓練を行うことができた。また昨年引き続き消防署の方に来ていただいて体験型の実地訓練を行い、生徒の防災意識の向上を図ることができた。</p> <p>○美化委員会の朝清掃を定着させ、落ち葉が多い時期についてはボランティアを募って活動を拡大させることで、生徒の美化意識を高めることができた。</p> <p>○季節の花を花壇に植えるなど、委員会活動を通して校内緑化を推進することができた。</p>	<p>・保健委員会による集会や文化祭での発表や掲示物の作製、学級での啓発活動などを通して、健康や安全に対する関心・意欲を高めていく。</p> <p>・引き続き動線の確保や消毒などの感染症対策に留意しながら、計画的に健康診断を実施する。</p> <p>・養護教諭と各担任、学年職員が引き続き連携し、保健室を利用する生徒の情報共有を行っている。</p> <p>・全職員で共通理解をもとに給食指導や食育ができるよう、資料を作成し職員に周知を行う。また、食育に関する健康教育を計画することで、生徒の食に対する関心と理解を高める。</p> <p>・性や薬物乱用について、より効果的な指導方法や教材についての研究・実践を継続する。</p> <p>・引き続き外部機関と連携しながら体験的な防災訓練を計画し、生徒の防災意識向上を図る。合わせて、GIGA端末を活用した効果的な防災学習の研究と実践に努める。</p> <p>・校舎内の整理整頓や安全管理を継続して行い、教育環境の整備に努める。</p> <p>・豊かな心グループと連携し、生徒会活動を通して校内美化・緑化活動に対する生徒の意識向上を図る。</p>

7	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学年・学校だよりの発行 ○学校ホームページの更新 ○学校教育推進会議（いじめ防止対策会議）の計画的な運営 ○小中連携会議の定期的開催と連携事業の推進 ○地域の教育力の効果的な活用 ○学校評価の工夫・改善 ○学校運営協議会への移行準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりを発行し、学校の様子を保護者に発信することができた。 ○学校基本情報や学校評価の結果、部活動の大会結果をホームページに掲載し、情報を発信した。 ○昨年まで中止していた学校教育推進会議を復活し、3回実施した。その中で、学校運営協議会への移行案を提案し、承認を得た。 ○小中連携事業として、例年計画している事業の一部が中止となったが、教務主任間での情報交換を密に行い、互いの教育活動を理解し合った。小学生の中学校体験は、昨年度中止した部活動体験を復活し、コロナ前の形で実施することができた。 ○職場体験を復活し、生徒が自分の将来や生き方について考える機会をもたせることができた。 ○保護者面談や各説明会などを通して、生徒や学校の教育活動について発信した。 ○授業公開や京翔祭の展示発表を通して、実際に保護者が生徒の学習の様子や成果を見る機会をつくった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを通して、生徒の活動の様子を発信しているが、今後はPTA活動についても発信していきたい、地域に向けての情報発信を活発にし、より一層教育活動について知っていただくようにする。 ・中止していた事業が多い小中連携事業においては、教員の授業参観を皮切りに復活させる事業を増やしていき、小中9年間を見通した教育活動を進めていくことができるように、情報の共有にあたりたい。 ・保護者面談や各説明会を通して、学校の様子や情報を保護者に伝えようと努めた。かわさきGIGAスクール構想が推進され、ICT機器を活用した情報の発信・共有方法に工夫の余地が大いにあり、継続して研修を深める。
---	--------------	---	--	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ○授業では、どの学年も、各教科・領域において、概ね落ち着いて取り組んでいる様子が見られた。生徒と教員の関係も良好で、穏やかな雰囲気を感じることができた。 ○年度を重ねるごとにクロムブック等を活用して各教科・領域で生徒の関心・意欲を高める授業の改善が見られた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響も明けて、4年ぶりに現状に戻る学校行事もあったが、どの画工行事においても生徒の自主的な取組が見られた。 ○生徒指導において、家庭や関係機関との緊密な連携ができています。 ○いじめ等を含めた生徒の問題行動に対して、初期対応を含めて、外部機関と連携し、早い段階でケース会議などで組織的に対応できる体制を整える必要がある。 ○様々な問題行動の未然防止のため、情報の共有、早期対応に学校全体で取り組める体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で授業を参観し協議する校内授業研究会を年2回実施し、総合教育センターの指導主事を講師に招いて研修を深めた。また、GIGAスクール構想を図り、クロムブック等を活用して、言語活動の充実を推し進め、基礎基本の定着や確かな学力の育成に努めた。さらに、今後も教職員全体で研究を深めていけるよう、校内研究体制の構築に努めたい。 ・「共に生きる」について考える道徳週間をはじめ、外部講師を招いての講演会を実施して道徳の授業推進に努めた。今後も組織的な取組や授業実践を積み、道徳の授業を推進していく。 ・本校教職員や教育活動サポーター、特別支援教育サポーターの配置による入り込み支援を展開し、個別に支援が必要な生徒への学習支援に一定の成果がみられた。一方、不登校生徒の別室による学習支援については、学級担任任せの状況であり、今後実施していくことを前提とした構築が必要である。 ・今年度は4年ぶりに地域のお神輿担ぎや2学年による職場体験、3学年による保育実習を実施することができた。地域からの評価も好評であり、地域との連携を含めて今後も積極的に実施していきたい。 ・職員研修では、生徒の安全配慮に向けた保健安全の研修、体罰防止研修、いじめ対応についての研修を実施することができた。今後も計画的に実施していきたい。 ・学校教育推進会議を年3回開催して地域の方々の協力を得ることができた。また、同会議に教育政策室の担当者も参加して、来年度に予定している学校運営協議会に移行していくための準備をすることができた。